

## はじめに

私の座右の銘は“現状維持は退歩、活性化を”である。それに呼応して職員一同が奮励努力し、業績がわずかながらも右肩上がりとなっていることは誠に喜ばしいことである。

本会の活性化については次の2点をあげたい。一つは「健康経営優良法人2021 ホワイト500（ホワイト500）」の認定取得であり、もう一つはライソゾーム病のスクリーニングに向けた取り組みである。

企業にとって人材は非常に大切な経営資源である。人が健康であり続けることが企業業績に直結する。そこで経営者は従業員の健康維持、増進を企業の理念として健康経営を行うことが肝要である。

2016（平成28）年、経済産業省はこの理念に呼応する企業に対し、ホワイト500の認定を提案した。このハードルは極めて高い。私は昨年10月、「健康経営宣言」を行うとともに、この認定取得を機関決定し、実行中である。このハードルとは、①経営理念②組織体制③制度・施策実行（定期健康診断受診率100%、受診勧奨、ストレスチェック、過重労働防止、ワークライフバランス、職場の活性化、病気の治療と仕事の両立支援、特定保健指導、運動機会の増進、受動喫煙防止等）④評価・改善⑤法令順守である。このすべてのハードルをクリアすべく、健康経営推進準備室を立ち上げ、邁進中である。

さらにもう一つは、従来の代謝異常症のマススクリーニングの他に、ライソゾーム病のスクリーニングのための試験研究を開始する。ライソゾーム病とは、ライソゾーム内に大量の脂質、ムコ多糖などが蓄積し、骨変形や中枢神経障害、眼障害、腎障害、心不全などいろいろな症状を呈する疾患群であり、現在60種の疾患が含まれる。今回はこのうち、酵素補充療法が確立しているファブリー病、ポンペ病、ゴーシェ病、ムコ多糖症などを対象に、タンデムマス法によるスクリーニングを実施する。これは東京慈恵会医科大学との共同研究であり、現在、スクリーニングのカットオフ値を明確にするため、パイロットスタディから開始し、その精度を担保中である。

先頃、これらスクリーニングの試薬メーカーであるパーキンエルマー社のCEO Joel S.Goldberg氏と会う機会があった。これは門外漢の私を開眼させる会合であった。米国ではライソゾームのスクリーニングが普遍的に実施され、加えて近年では筋ジストロフィーの分野にまで研究が進んでいるという。新生児のスクリーニング分野がここまで進んでいることはカルチャーショックである。

従来の健診・検査事業に加えてこの2件の実行は、必ずや本会の活性化につながると確信している。

2020年3月

公益財団法人東京都予防医学協会  
理事長 小野良樹